

事前実務実習

Pre-Clinical Pharmacy Practice

薬：F2-02402MY

総合科目 4年／前・後期 4単位 必修科目

科目責任者 <前期>石川 洋一(薬学教育研究センター／小児医薬品評価学)／<後期>山崎 紀子(薬学教育研究センター／地域医療学)

■ 教育目的

5年次に行われる病院実務実習・薬局実務実習に先立って、大学内で調剤、無菌操作、患者応対、情報提供などの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。【卒業認定・学位授与の方針：YD-①～④】

■ 学習到達目標

1. 医療チームの一員として、病院・薬局における薬剤師業務の概要と社会的使命を理解し行動する。(知識・技能・態度)
2. 処方箋受付から服薬指導までの基本的な流れを修得し、調剤を正確に実践する。(知識・技能・態度)
3. 処方箋上の用法・用量、禁忌、相互作用などを含む調剤上注意すべき基本的事項を修得し、確実な処方監査を実践する。(知識・技能・態度)
4. 医薬品の管理と供給に関する基本的知識と技能を修得し、正しい取扱いを実践する。(知識・技能・態度)
5. 薬剤師業務が人命にかかわる仕事であることを認識し、医薬品の基本的な副作用、調剤上の危険因子とその対策、院内感染などに関する知識、技能を修得し、患者が被る危険を回避する。(知識・技能・態度)
6. 患者応対、情報提供に関する基本的知識、技能、態度を修得し、患者の安全確保と QOL 向上に貢献する。(知識・技能・態度)
7. 病院・薬局における一連の業務を総合的に実習し、病院実務実習、薬局実務実習の効果を高める。(知識・技能・態度)
8. 医療倫理・法令、リスクマネジメント、医療連携、セルフメディケーション、薬剤師の能力等に関してその重要性や課題を討議する。(知識・態度)

■ 準備学習（予習・復習）

予習：事前実務実習・実習書の該当部分に事前に目を通しておくこと。(30分以上)

復習：実習及び指導を受けた内容を振り返り、確認すること。不明箇所は指導教員に質問すること。(30分以上)

■ 授業形態

課題解決型学習、ディスカッション・ディベート、グループワーク、実習・フィールドワーク

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	前期事前実務実習	オリエンテーション 情報収集・情報提供、調剤、無菌調製の基礎知識および基礎技能(I)修得 医療倫理・法令、リスクマネジメント、医療連携、セルフメディケーション、薬剤師の能力等に関する SGD	F(1)-②-1～3, ③-1,2 F(2)-②-1～6, ③-1～8, ④-1～8, ⑥-3,5 F(3)-①-1～4, ②-1, ④-1～3, F(4)-②-2, F(5)-①-1～3, ③-1～4
2	後期事前実務実習	オリエンテーション 情報収集・情報提供、調剤、無菌調製の基礎技能(II)修得	F(1)-②-1～3, ③-1,2 F(2)-②-1～6, ③-1～8, ④-1～8, ⑥-5 F(3)-①-1～4, ②-1, ④-1～3, F(5)-①-1～3, ③-1～4

■ 授業分担者

石川洋一(前期責任者)、山崎紀子(後期責任者)、朝田瑞穂、井上元基、植沢芳広、大野恵子、小田絢子、菅野敦之、佐藤光利、下川健一、鈴木陽介、高橋雅弘、永井純子、廣瀬 誠、深水啓朗、前田英紀、宮沢伸介、宮嶋篤志、望月靖子、安 武夫、渡辺史也、学外講師

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

フィードバックは指導教員が随時行う。出席状況、実習中の態度を含めて、ルーブリック評価(100%)で総合的に判定する。

■ 参考書

『実務実習事前学習テキスト』(ネオメディカル)、『グラフィックガイド 薬剤師の技能 理論まるごと実践へ』(京都廣川書店)、『治療薬マニュアル』(医学書院)、『今日の治療薬』(南江堂)、『治療薬ハンドブック』(じほう)

■ その他

事前実務実習では、前期～後期をとおして基礎技能(I)(II)修得を行う。実習は、本学で作成したルーブリック評価基準における該当項目がレベル2以上となるまで繰り返し実習する。